

## 令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- 授業での発言や学習活動に対して主体的に取り組む姿勢が多く見られるようになった。学習に対する自らの考えを深めようとする態度にあらわれている。演示実験や実験・観察の結果への考察について、班で協力し、積極的に取り組むようになっている。

#### (2) 課題

- 自らの考えを授業内でわかりやすく発言する工夫・表現についての育成が課題である。レポートの書き方や発表のしかたについて、添削指導や発表方法の工夫の例示など、指導方法を工夫することで改善していく。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全体の正答率は、前年度の校内平均および区の平均を下回った。領域別でも前年度の校内平均、区の平均を下回った。	/	/
第2学年	全体の正答率は、前年度校内平均および区の平均を上回った。内容別では「動物の分類」が区平均を若干下回った。	全体の正答率は、区平均を上回る結果であった。ただ、各分野において、「植物の発芽と成長」は区平均を下回った。	/
第3学年	全体の区の目標値と区の平均を下回る結果であった。ただ、各分野において、「電流の正体」と「気象の観測」の正答率が区平均を上回った。	昨年度より教科全体の達成率が1.6ポイント高くなった。特に観点別正答率の項目では目標値に対して上回っている結果である。教科の正答率は全国平均及び区平均を上回っている。	教科全体の達成率は、目標値、区の平均ともに上回っている。しかし、全国平均と比べると若干下回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均、全国平均ともに下回っている。	目標値、区平均、全国平均ともに下回っている。	目標値、区平均、全国平均ともに下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均よりも上回っている。	目標値、区平均よりも上回っている。	目標値、区平均よりも上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均ともに下回っている。	目標値、区平均ともにわずかに下回っている。	目標値、区平均、全国平均を下回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に小テストを設け、基礎基本の定着を図る。実験においては、実験器具の正しい使い方にも焦点を当てていく。	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果から何が言えるか考えさせる。また、授業の際に適宜班活動も取り入れることで他者に自分の意見を伝える場を設けていく。	第1学年のため、まずは学習規律・学習習慣の確立を目指す。実験をおこない、まとめでICT機器を用いることで、生徒の関心・意欲を引き出す工夫をする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前時の復習を取り入れて、知識の定着を図る。小テストで基礎基本が身に付くように反復学習をする。実験する目的や、確認すべきところを理解して実験できるように指導する。	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果から何が言えるか考えさせる。また、授業の際に適宜班活動も取り入れ、自分の考えを発表させる場面を取り入れる。	学習する内容が、日常生活に結びつけられるものは紹介し、興味をもたせる。またICT機器を用いて、調べ学習をしながら、みずからの課題が解決できる姿勢を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に小テストや演習の時間を設け、基礎基本の定着を図る。物理分野では、記録タイマーでの運動の記録の取り方について扱い、記録テープの処理の仕方や結果の見方を身に付けさせる。	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果を文章やグラフ等で表現することを重視していく。また、授業の際に適宜班活動も取り入れることで他者に自分の意見を伝える場を設けていく。	実験の機会を増やし、自分で実験の結果を確かめる機会を増やす。また、ICT機器を効果的に用いて、視覚的に理解を促し、生徒の関心・意欲を引き出すことで、自ら学ぶ姿勢を育成する。